



# 「“ああでもない”、“こうでもない” って交流を大切に」

みさと健和病院

研修医 梁取 慧先生



研修医として奮闘中の梁取先生。インタビュー前も外来研修をおこなっていました。指導医の先生と相談しながら、診察をおこないます。患者さんの趣味のお話も伺いながら、和やかに診察がおこなわれていました。  
人と関わるのが大好きだという梁取先生。学生時代のお話を伺います。

## 一 医師を目指した理由を教えてください。

思い返すと、小さい頃は風邪をひくことが多く、よく医者にかかっていました。

家のそばの開業医の先生が身近な存在で、大好きな先生でした。食べるものにまであれやこれやと覚えてくれたのを覚えています。

医師という仕事が「人の生活に関わる」ことだという刷り込みがこの時にあったんだろうなって思います。他にもなりたいと思う仕事は幾つもあったんだけど、人と関わる仕事をしたという思いが強かったし、健康というのは人に関わることの根源だという思いもあったんです。いま思えば高尚なことっているなって感じですけど(笑)。でも、それが自分のなかでの医師を目指した初心だったんです。

## 一 民医連との出会い

大学受験の際、門前で配られていた民医連の資料を受け取ったのがきっかけです。

奨学金は必要だったので、受け取った資料のなか、「奨学金制度説明」は関心がありました。働くことで返済免除がされるという制度なので、自分が医師としてどこで働くかということも考えるきっかけになりました。

将来は、自分の出身地である、松戸で医療をしていきたいと思っていたので、近いところにあるみさと健和病院で勉強するのいいのではないかと思い、お話を聞いたり、実習したりしました。

## 一 奨学生になったきっかけは何ですか？

入学後、1年間悩みました。奨学金をもらうと将来ここで働くことになる。将来を今決めてしまってもいいのだろうか。

けれども何回か実習をしてみて、みさと健和病院が、地域とすごく繋がりがあり、患者さんを一



外来研修中

人の人間として見ていく患者観があり、病を持ったひとりの人の人生に関わっていくというスタンスを持っている病院・団体だと思いました。

ここで医師として研修することは学ぶべきことが多いと思い、奨学生になることを決めました。

## 一 奨学生活動では、どんな事をしましたか？

東京民医連の奨学生ミーティング、東京慈恵医科大ミーティング、医療や社会に関わるテーマ学習、宮城への震災ボランティア・医学生をつどいと様々な活動に参加しました。

特に楽しかったのは東京民医連奨学生合宿です。その場に行かないと感じられないことがたくさんあったし、その場で色んな人と出会って、「ああでもない」「こうでもない」とディスカッションや交流できたことが自分の成長につながっている。もちろん、事前に学習する機会もあるからこそ、深められるというのも大事なポイントでした。

テーマ学習では「ハンセン病」「アスベスト」「水俣病」「東京の地域医療」など学びました。学んだことをよく「発表」してアウトプットしていました。自分自身、人とお話しすることや自分の考え経験を伝えること、人に教えるのが好きということも大きかったかな。

奨学生活動って学ぶとか実際に体験するというのも大事だけれど、それだけではなく先輩や後輩との出会い、医師や医療者との出会い、そういう人との出会いや交流も大事だったんです。そういう学びや体験や出会いを通じて、自分たちが学んだことを形にして伝える。その繰り返し楽しかったんですね。それが奨学生活動の魅力なのかもしれません。

## 一 医師として、働きがいは何ですか？

まだ、医師になって7カ月。決して楽な仕事ではないと感じています。ご飯を食べていただけだったら選ぶ仕事じゃあないなあと。「人と関わる仕事」が好きと実感できているから続けられているのかと思っています。とくに看護・薬剤・リハビリなどのスタッフと一緒に患者さんについて相談しながら「協働」して医

療をおこなっていると実感できるのが楽しい！

この病院だと患者さんを「病気」だけでとらえるのではなく、地域や生活環境といった広く総合的にみていくことが出来る。そういうことを大事だと思う。もう一つは、この病院では人とのコミュニケーションがとりやすい。「人と関わる仕事」をやっていくうえではずいぶんリット。

ここでの経験を生かして、ゆくゆくは精神科医の道へ進みたいと思っています。

## 一 医師を目指す学生さんへのメッセージを

医学生は忙しいっていうけれど、部活にも取り組んだし、アルバイトもした。奨学生活動も楽しいから取り組みました。

忙しい中でも、結局自分がやりたい事ってなんだろう。自分は、どういう人間でどういう生き方を生きて、こういうことをしていきたいって明確にして、だから頑張れるんだ、楽しいと思えるからやっていくんだって思える。それを学生の時からしっかり考える事が大事だと思います。

医師にとって、自分の「軸」とか「根幹」というものはとっても大切。これは医学生にとっても大切なことだと思う。ぜひ学生時代に様々な経験をして、「自分の軸」を強くしてほしいと思います。



医学生時代・緩和ケア病棟での演奏ボランティア